opusdei.org

黙想:1月4日

黙想のテーマ:「私たちは真に神の子である」「イエスとの出会いの経験」「感謝とお願いの祈り」

私たちは真に神の子である

イエスとの出会いの経験

感謝とお願いの祈り

年の初めのことばの典礼では、使徒ョハネがパトモス流刑から帰った後エフェソでしたためた「ヨハネの手紙一」が読まれます。手紙の中心

テーマは、聖ヨハネが何度も繰り返す、キリストへの信仰と兄弟愛を通して実現する、キリスト者と神の交わりです。

使徒は手紙の中で「神は愛です」と 何度も繰り返します。また、神は全 ての存在の源であり、キリストと 愛によって神の子とされたこと詩 であるいは神の子となあるいは神の 意味ではなく真に私たちは神の ます。と真に私たちは神の がから生まれた人と呼ばれるのよっ でが、この がいます。 にもずいます。 はないます。 はないます。 はないます。 はないます。 はないます。 はないまれた人と呼ばれるのよう。 にもから生まれた人は皆、罪を犯しません。 はない。 はないの人の内にいつ

聖ホセマリアは1967年のクリスマスイブに次のように言いました。「私たちは、自身が神から生まれ、神にとても愛されている子であることを

もあるからです。この人は神から生 まれたので、罪を犯すことができま

せん| (一ヨハネ3・9)。

知っています |。「今夜、主は、私 たちが愛を深め、そして神との親子 関係を深めるように、御母を通し て、新たな恵みを豊かにもたらして くれます (…)。子供たちよ、良く 考えてください。私たちを神の子に してくれた、この神なる長兄に私た ちがどれほど感謝すべきか考えてく ださい。皆さんは、あらゆる世話が 必要な幼い弟や妹、親戚の赤ちゃん を見たことがあるでしょう。幼子イ エスも同じです。その無防備な状態 について考えるのは良いことです。 全能の神でありながら、貧しく、吹 きさらしの所で人となり、私たちの 愛情を必要としています。あの寒く 寂しい所で、聖母と聖ヨゼフと一緒 にいるイエスが望んでいるのは、温 かさのこもった私たちの心です。そ れゆえ、心から邪魔物をすべて放り 出しなさい。子よ、私たちの心を邪 魔する全ての事を調べ、それを追い 出すのです。誠実に。聖ヨハネは第 一章でそれを繰り返します:

Quotquot autem receperunt eum dedit eis potestatem filios Dei fieri 『言(ことば)は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた』(ヨハネ1・12)」 [1]。

カファルナムの二人の漁師ヨハネと アンドレは、洗礼者ヨハネを偉大な 預言者と考え、彼に従いました。あ る日、洗礼者は傍らを诵ったイエス を見て「見よ、神の子羊だ」(ヨハ ネ1・36) と言います。彼の弟子たち は「それを聞いて、イエスに従っ た | (ヨハネ1・37)。この出会いは 彼らの人生を変えました。「二人は 好奇心に満ちて、遠慮がちに遠くか らイエス従うことにしました。どう したらいいのか分からなかったので す。すると主自身が振り返り『何を 求めているのか』と声をかけます。

この対話から、冒険が始まりました」では、「彼らが、『ラビー〈先生〉という意味一どこに泊まってエコーでは、『来なさい。そうすれば分は、『来なさい。そこで、彼らは、で行って、どこにイエスが治まって、だられるかを見た。そしてそしておられるかを見た。そしてそしておられるかを見た。そしてもとに泊まった」(は、ハネ1・38-39)。あの日から二人はです。

「先生、どこにお住まいですか」と。すると祈りの静寂の中で「来なさい、そうすれば分かる」と言うイエスの応答が聞こえてきます[3]。

聖ホセマリアは励まします。「子と しての祈りを欠かさず続けましょ う。Oro coram te, hodie, nocte et die「私は御身の御前で昼も夜も祈り ます | (ネヘミヤ1・6)。昼も夜 も、眠っている間さえも、私たちは 観想者であり、夢は祈りの一部であ る、と私が言うのを皆さんは度々聞 いたことでしょう。それは主の教え です。"Oportet semper orare, et non deficere"(気を落とさずに絶え ず祈らなければならない)(ルカ 18・1)。いつもいつも祈らなければ なりません。内的生活における成功 や失敗の度毎に神に馳せ寄る必要性 を感じなければなりません。 (...)

『何があっても私はあなたの子です』と言うために謙遜に主に立ち帰りましょう。放蕩息子のように振る舞いましょう。私たちはいつも祈ります。長い口祷によってではなく(マタイ6・7参照)、言動を伴わない念祷によってです。その祈りはどこで行われるのでしょうか。"In angulis platearum…"(マタイ6・5)。通りや広場を横切るとき、絶えず祈っていなければなりません」四。

「どのように祈りましょうか。感謝の内に祈ることです。父なる坊に不りましたがあればにない。 あたったイエスに感謝します。 な馬小屋で、そして半としてが表した(エーアンで、では悪いでででででででででででででででででいます。 はたがいがいまればいでででででです。 は父親に何を頼みますか。 は父親に何を頼みますか。 は父親に何を頼みますか。 は父親に何を頼みますか。 は父親に何を頼みますか。 は父ればない。 ないまりまするものです。 ないまりまるものです。 ないまりまるものです。 い。そうすれば、与えられる。叩きない。そうすれば、開かれる(マタイ7・7)。神に何も頼まないでもあずできるでしょうかととを頼みなさい。月を頼みなさい。のは色々な形でいることを全てくれるでしまは色々な形で叶えてくれるでしまり。信頼をもって頼みなさい」。5。

イエスが住む家には甘美なマリアもいます。私たちが神から生まれたものとして生き、またその家に住むためにイエスとの出会いを求めるよう 聖母に助けを願いしましょう。

[<u>1</u>] 聖ホセマリア、説教「絶えず祈る」。

[2] 聖ヨハネ・パウロ二世、第12回 ワールドユースデイのためのメッ セージ(1997年パリ大会)、1996年 8月15日。

[3] 同上参照。

[<u>4]</u> 聖ホセマリア、説教「絶えず祈る」。

[5] 同上。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-koutan-0104/(2025/12/17)